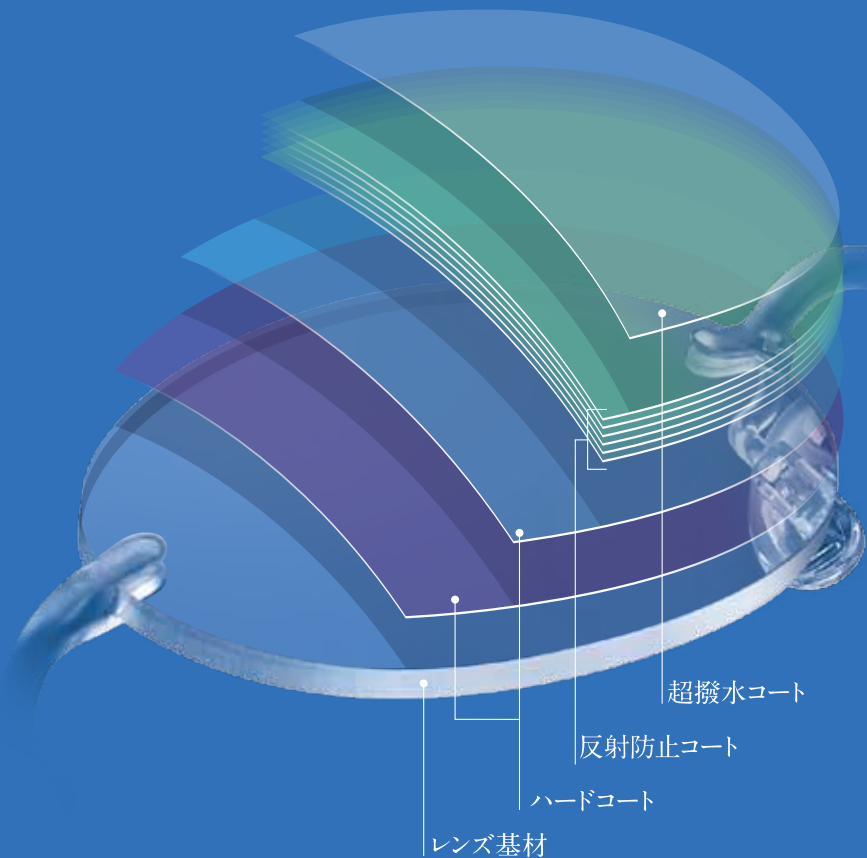


レンズは、あなたの目のよきパートナーです。

レンズメーカー
からのお願い

レンズの性質を良く理解して快適にお使いください。

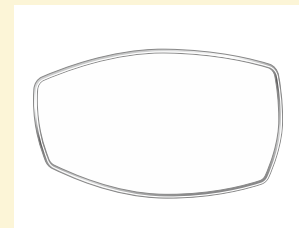
無防備なプラスチックレンズを 「コート膜」で守っています。



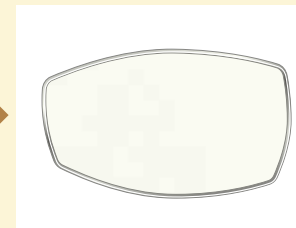
プラスチックレンズは、基材の上に何層ものコート膜が施されています。それぞれが極めて薄い膜ですので、使用条件によっては、キズが付いたり、コート膜がはがれたりします。メガネと長く快適におつきあいいただくために、ぜひプラスチックレンズの性質をよく理解して、正しい取り扱いを心がけてください。

プラスチックレンズは 経年変化します。

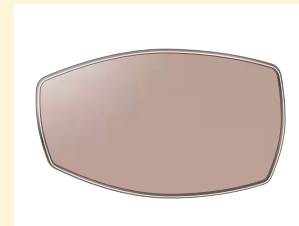
プラスチックレンズは、紫外線、熱、水分などの吸収によって、素材の色調が徐々に変化（経年変化）します。無色レンズは、素材の色調が徐々に黄色味を帯びてきますが、カラーレンズは黄色味に加えて、染料の色調も徐々に変色・褪色をします。



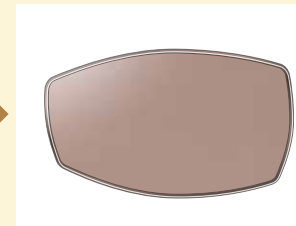
新品の無色レンズ



5年使用した無色レンズ



新品のカラーレンズ

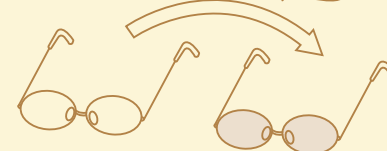


3年使用したカラーレンズ

メガネをご使用中に片方だけ新しいレンズに交換すると、左右の色調が合わなくなってしまいますので、レンズ交換をする際には左右同時にする事をおすすめします。

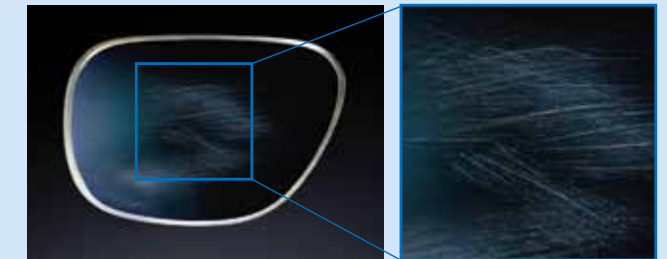


プラスチックレンズは、大事に保管しておいても、徐々に劣化（経年変化）していきます。1年ごとを目安に購入店で点検を受け、劣化があれば早めの交換をおすすめします。



プラスチックレンズの 修理はできません。

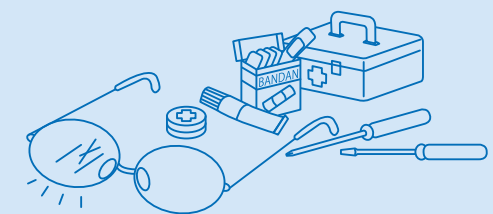
キズついたり、コート膜がはがれたレンズ表面は、見た目以上にダメージを受けていると思われます。あえて修理をしようとしても、強い薬品でコート膜をはがしたり、高精度な研磨加工が必要ですが、かえってレンズ表面が荒れてしまい、再生ができません。



キズ



コートのはがれ



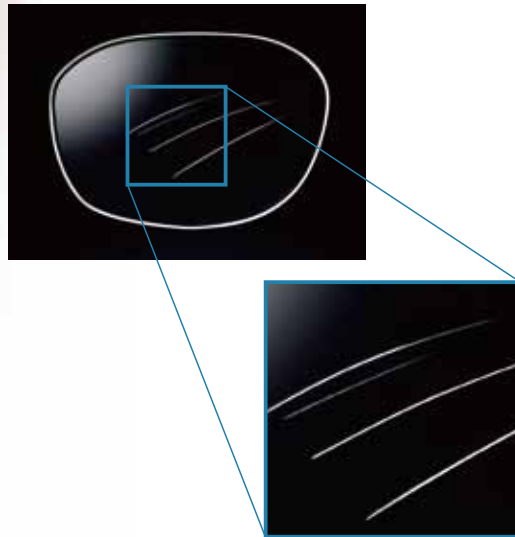
プラスチックレンズは、残念ながら修理再生することができない製品であるご理解いただき、やさしいお取り扱いをお願いいたします。

プラスチックレンズは、素肌とおなじようにとてもデリケート。

キズやシミ、コート膜のヒビ割れなどは、ちょっとした気づかいで防げます。

プラスチックレンズは 繊細な 光学製品です。

プラスチックレンズは素材が柔らかいため、キズに強いコート膜を施しても過信は禁物です。レンズ面を下にして机の上に置いたり、むき出しで鞆やポケットから出し入れするのはキズのもとです。



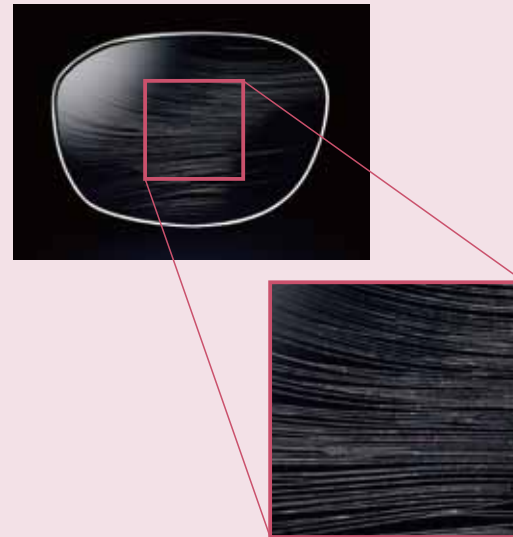
キズ



レンズの拭き方のコツは、から拭きを避けること。クリーナーなどで軽く湿らせた専用のレンズ拭きで、サンドイッチをつまむ程度の軽い力で拭いてください。

ご購入直後でも、 コート膜にヒビ割れを 生じる場合があります。

たとご購入直後であっても、プラスチックレンズは60℃以上の高温になると急に膨張する性質があり、コート膜にヒビ割れを生じる場合があります。



ヒビ割れ

炎天下の車中や、サウナ、ドライヤーはもちろん、炭火焼肉やバーベキューなど、焼きながら食べる熱い食事にもご注意ください。顔が少しほてる頃には、レンズは高温になっています。



超撥水コートでも、 水ヤケを生じる 場合があります。

超撥水コートは水や油を弾いて水滴にしますが、水滴に含まれる汚れの成分は、そのまま乾燥すると水ヤケとなって固着する場合があります。大切なのは、水分が乾かないうちに拭き取ることです。



水ヤケ

購入したばかりの新しいレンズの表面は、滑らかで撥水効果が高いため、水分が微細な水玉となって付着します。このため光が乱反射して曇りを感じますが、軽くレンズを拭きながらご使用いただければ、曇りやすさは徐々に落ち着いてきます。

